

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1344 号	氏名	水落 伸治
審査担当者	主査	大島 孝一	(印)
	副主査	古賀 浩徳	(印)
	副主査	鳥村 拓司	(印)
主論文題目： Clinicopathological Analysis of non-B non-C Hepatocellular Carcinoma Focusing on Cellular Proliferation (細胞増殖能に着目した非B型非C型肝炎細胞癌の臨床病理学的検討)			

審査結果の要旨 (意見)

今回の研究は NBNC-HCC に対して治癒的切除を行った患者の核グレードや Ki-67 labeling index (LI) 等の細胞増殖能の評価を含めた臨床病理学的検討を行ったもので、研究対象は初回治療の肝切除術の NBNC-HCC 56 例、HBV 関連肝細胞癌 (HBV-HCC) 45 例、HCV 関連肝細胞癌 (HCV-HCC) 96 例が対象である。結果は、NBNC-HCC の腫瘍径は HCV-HCC よりも有意に大きかったが、HBV-HCC との間に有意差はみられなかった。NBNC-HCC の核分裂数スコアや核グレード、Ki-67 LI は HCV-HCC と有意差は見られなかったが、HBV-HCC よりも有意に低かった。全生存期間、無再発生存期間に有意差は確認されなかったが、背景肝の線維化が軽度な症例では、NBNC-HCC の無再発生存期間が、HBV-HCC 群よりも有意に良好であった。審査にあたり、主査、副査からの、今後の展開、また実験系の可能性に対する質問にも的確に回答が得られている。この論文は十分に学位に値するものと考えられる。

論文要旨

NBNC-HCC は肝炎ウイルス関連 HCC よりも腫瘍径が大きいという報告があるが、原因は不明である。NBNC-HCC に対して治癒的切除を行った患者の核グレードや Ki-67 labeling index (LI) 等の細胞増殖能の評価を含めた臨床病理学的検討を行った。

2008 年から 2013 年までに初回治療として肝切除術を施行した NBNC-HCC 56 例、HBV 関連肝細胞癌 (HBV-HCC) 45 例、HCV 関連肝細胞癌 (HCV-HCC) 96 例の合計 197 例を対象とした。

NBNC-HCC の腫瘍径は HCV-HCC よりも有意に大きかったが、HBV-HCC との間に有意差はみられなかった。NBNC-HCC の核分裂数スコアや核グレード、Ki-67 LI は HCV-HCC と有意差は見られなかったが、HBV-HCC よりも有意に低かった。NBNC-HCC、HBV-HCC、HCV-HCC との間に全生存期間、無再発生存期間に有意差は確認されなかったが、背景肝の線維化が軽度な症例では、NBNC-HCC の無再発生存期間が、HBV-HCC 群よりも有意に良好であった。

NBNC-HCC は腫瘍径が大きいものの、増殖能が高いとはいえなかった。